

【ドイツ・農家民宿の情報】

ミュンヘナー・メルクール紙 (訳注) 週刊ジャーナル

2018年8月25日・26日

農家でのデラックスな休暇—体験の世界をどのように —子供たちに特化したオーバーバイエルンの農家民宿—

子供たちは、もはやホテルでなくて農場を歓迎している。多くの農業者は、自分の経営を小さな休暇者のために、楽しめる冒険広場—遊び場に改築している。

小さな子供用の農家民宿

小さなジョゼフィーナは、畜舎の中を興奮して走り回っている。明るい色のタテガミをもったポニーに明日乗れるから。乗馬の先生が同行し、そして小さなお客に農場の周りの広々とした敷地を見せてくれる。”私は喜んでいる。”6歳の子供は、目を輝かせてポニーを軽くたたいた。祖父母とともに娘は、夏休みの一部をキーム湖（訳注・バイエルン地方の湖）沿いにあるモイヤー農場で過ごした。

祖父母はしばしば自分の孫を、目にすることができなかった。なぜなら、ジョゼフィーナは日中存分に遊びまわっていたから。例えば、動物と一緒に。ポニーはエンジンをほしがっている。ふわふわした家ウサギを撫でる。ジョゼフィーナは、ヤギにひとつかみのタンポポをもってきた。小さなロバは、ブラシでのマッサージを喜んでいる。それからまだ時間がある場合、農場主と一緒にトラクターで畑を走る。

農家のマートヒアス ウンターマイヤーは、小さなお客を喜んで受け入れている。畜舎の戸の前には、川岸を走るためのカラフルなゴーカートが待っている。子供たちは、この家専用のプライベートな小橋の上から、きれいな川の水にジャンプすることができる。いつも退屈さを感じている人は、焼き肉の夕べのために庭の薬草を探るか、またはマウンテンバイクでもって、近くにあるケルト人—居住跡地を探索できる。

訳注・バイエルン州都・ミュンヘンを中心に発行される新聞 発行部数約 18万～20万部

” 小さな男の子と女の子は、保養のために干し草のベッドに寝転ぶか、あるいは家畜小屋の屋根裏によじ登る。この農場の動物たちは、子供たちのための主たる魅力である” と農場主は語った。彼はずっと以前から農場の中で休暇の家の貸し出しを、重要な収入源としている。 農村でのデラックスな休暇のために、多くの投資がなされている。彼の休暇の家は、5ツ星に分類されている。

主要シーズンには、この農場で約 30 人の子供たちがはしゃぎまわっている。 ”我々は特別なアニメーションを必要としない。子供たちは全て自分で発見し、そして試してみるべきである” と、ウンターマイヤーが述べた。母親たちが日頃のストレスを抱えているとき、ここで僅かばかり開放される。

” 失う人は誰もいない” と、農場主は微笑んだ。彼の両親はお客の部屋でもって、収入を改善してきた。その当時はまだ、共同シャワーと 2 段式ベッドであった。この間にウンターマイヤーは、施設を拡張した：アパートメント（訳注・キッチン付きの自炊可能な賃貸し部屋）の中に独自の子供部屋と、屋根の覆った戸外イスがある。” 私はこの間なお、畜舎の中でより多くの牛を、農場のお客と接するよう飼育してきたことは、私にとって問題でなかった。我々は最終的に活動的な農場を維持したい” と、彼は語った。



大きな家畜でも恐れぬ。ズイク村のタクスベルガー農場（5ツ星）で、小さなお客が牛舎での餌やりを体験。

赤ちゃん用の農家民宿

この副業的な仕事は、他の農場でもとっくに組み込まれていた。”我々はお客が熱中できるいくらかの時間に留意している”と、ウンターマイヤーが述べた。

一方では、コスト的に良好な質素な宿泊を提供することに対し、高い水準への要望が存在する。常により多くの農場が、小さな子供たちや赤ちゃんに対応して、専門化している。「バイエルン州農場一農村での休暇連盟」のゲルダ ヴァルサーが指摘した。

両親は農村での休暇を、長い飛行時間と旅のストレス無しと評価している。ズイーグス村にあるダクスル ベルガー農場が、小さい子供用に専門化している。これまで最も若いお客：生後 10 週間。休暇の家を始めた 30 歳の夫婦は、自ら小さな子供たちがいた。”我々は、休暇客が何を必要としているのか、知っていた”と、農場主のガービィ ブーフエスターが説明した。今、53 歳で小さなお客たちに、十分なプログラムを提供している。

双子用のベットの上の消毒器からベビーモニター（訳注・例えば別室など離れたところからでも、幼児の様子を見守られる設備）と子供用浴槽まで、殆ど全てを準備している。両親が自宅から持参しなくても良いように。トラウンシュタイン郡の農場では、最大 6 家族が同時に休暇ができる。”マーチィ（2 歳）は最初にここで過ごし、そして今は大きくなってトラクターで農場主と一緒に走り回っている”と、ガービィが説明した。家畜のための干草をもってくることも、または牧場にいる家畜に水桶をもっていくことも同じである。農場での全ての小さな子供たちのように、ザウラーラント（訳注・ドイツ中西部の丘陵地帯）から来た男子が、子供用一畜舎免許状に挑戦した。



多彩なプログラム。たいまつハイキング、パン焼き、干草の中で本を読み眠る。
トルート ラッピング村の農場で子供たちは退屈しないで過ごす。

農場体験に親の意識も変えて

”子供たちの課題としてヤギに餌を与え、そして仔牛に自分の指を吸わせる。大抵の子供たちは、1日中農場で感激している。彼らは無条件で農家になっている”と、ガービイは笑った。勿論、年とともに仕事上の要望が再び変化する。

3年間で農場は、子供に役立つことを試行している。”安全なことが重要である。私のところで危険なところとして、アパートメントの階段と機械の置き場なので、ここでの安全を確保する。私たちは、常に何を提供するかを探している。

我々は人形劇を開催しているのではない”と、農場主夫妻が述べた。そうではなくて、活発な農場生活を提供している。”その際、可愛い子供たちが喜んでくれることについて、街の多くの両親がまず慣れねばならない。ママは家畜に干草の餌やりの際に、彼女の娘を湿ったタオルでひっきりなしに、汚れをふき取っていた”と、ガービイが笑った。そして白いソックスは、畜舎の中で無条件に正しい衣類ではない。洗濯機は、少なくともフル回転している。

”子供ホテルの競争者から見れば、農場は明らかに下位にある。ホテルは、より多くの世話とアニメーションを提供している”と、自ら子供一農場を経営しているゲルダ ヴァルサーは述べた。子供たちを世話することが、我々のところでは大きな取り組みである。母親は、農家の庭で薬草をクリームの中に混ぜ、そして父親は最後にやっとトラクターに乗れる。テーマ「地域性」においても、多くの農家が農場一休暇客に取り組んでいる。

自分で摘み取ったりんご、鶏からの新鮮な卵、牛からの牛乳。都会の多くの子供たちは、ここで「あ〜なるほど一経験」を集めている。そして休暇の最後には、多くの小規模農家一訪問者は、もはや農家一生活と切り離せない。

”子供達は、最も愛すべき家畜を家に連れて帰りたくと、望んでいる”と、農家の主婦ガービイが説明した。ジョゼフィーナもまた、愛すべきポニーを「休暇の思い出」として、包みたいとしている。6歳の子が、来年の休暇に再び来ることに賛成している。





子供の農村での休暇。バイエルン州における5歳の子供たちに専門化した休暇。ダクスベルガー村のガビーブーフスターさんと薬草の時間を過ごす。退屈した子は冒険の遊び場を楽しむ。

バイエルン州には、休暇を提供する約1 200の農場があり、オーバーバイエン（訳注・行政管区）だけで500から600の休暇提供の農場が存在すると、バイエルン州農場―農村での休暇連盟が報告している。その内約20%が子供の休暇に専門化している。その中で幾つかは、いわゆる赤ちゃんと小さな子供に特化している。

バイエルン州では、地域、予約一期間そして設備によって、休暇の家が4人家族の宿泊料金の幅が、約50ユーロ（約6 500円）から300ユーロ（約39 000円）までとなっている。

2019・1・5 訳
青森中央学院大学
中川 一徹